

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年3月31日		事業所名: 児童発達支援・放課後等デイサービスekubo				
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	1	子ども達が過ごすために十分なスペースが確保されている	83%	17%	利用児の活動の状況により、柔軟にベッド等の備品の位置を変えるなどの対応をしている	安全に過ごしてもらえるように、備品の整理整頓や、環境整備を継続する
2	スタッフの数は十分に専門性のあるケアを提供している	92%	8%		ケアの充実を図るため、看護師の増員(新規採用予定)	
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	92%	8%		利用児それぞれの理解度、特性に合わせて個別に対応を保護者や関係各所と連携しつつ、より効果的な方法、必要な設備等も検討していく	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	課題や改善項目が出てきたときは、可能な限り迅速に、多職種で(参加できる職員全員で)カンファレンスを実施→参加できない職員には、後ほど共有ツール(グループLINE)等を活用し、情報共有を図っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	課題や改善項目が出てきたときは、可能な限り迅速に、多職種で(参加できる職員全員で)カンファレンスを実施→参加できない職員には、後ほど共有ツール(グループLINE)等を活用し、情報共有を図っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	改善内容については、個別にお知らせすることともに、情報共有が必要な案件については、公式ライン等の共有ツールを用いて情報の周知徹底に努めている	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	自分たちで、気づいたことについてはすぐ改善するように取り組んでいる	第三者評価は受けていない
8	職員の資力の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	67%	33%		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	不在の職員にも、情報共有をスムーズにするためにグループLINEを活用	職員の負担の少ない、かつ、支援内容がわかりやすい記録方法を適宜改善していった
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的なモニタリングの他にも、送迎時等に保護者の要望をきめ細かに聴き取るように努めている		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	42%	58%		就学直後の児童だと連携しているが、全てではないので、今後連携体制を整備する
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	75%	兄弟児を積極的に招き入れている	地域の障がいのない子どもとの交流の機会を作っていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	58%	42%		非常勤の職員に対するこのような取り組みを行っていることへの情報共有・周知徹底が不十分→報告の機会等を整備し、周知を図っていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
29	保護者の対応力の向上を図る観点からトレーニング保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	個別に対応	プログラム化されたものは提供できていないが個別には提供できているため継続とより良い支援方法を探っていく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		従来は正職員が説明を担当してきたが、保護者からの問い合わせに迅速に対応するため、非常勤職員が説明できるように研修その他で、対応力向上を図る
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	34	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		保護者へのマニュアルの存在の周知が不十分→ご意見をいただいたため、今後周知をするため各種ツール(SNSも含めた)を用い、情報発信をしていく	

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎月、実践に即した訓練を実施	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギー等の情報は、食事を準備する場所にもわかりやすく表示(目印のシール等の活用)	初回の聞き取りだけでなく、定期的アレルギー等の情報更新がないか要確認
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハット等の詳細な情報分析・解析が十分できていないところもあるので、今後の課題